

「ありがとう」と「恩送り」の心をつないで

校長 大野 郁子



早いもので今年度も残すところ1か月余りとなりました。学校では、子どもたちが1年間の自分の成長を振り返ったり、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたりしようと様々な活動をしています。私も校舎内を歩いていると、子どもたちから「校長先生、〇〇してくださってありがとうございます」と言葉を掛けられることがあります。そんな子どもたちの言葉に頬が緩んだり、心が温かくなったりします。「ありがとう」は、大人でも言われるとうれしい言葉です。

今年度、登校班、運動会、掃除、遠足、委員会活動など様々なところでリーダーとして頑張っていた6年生について、地域の方からとてもうれしいお話をいただきました。その方は、登校の時間帯に通学路を車で通られるそうなのですが、6年生の子が1年生に優しく声を掛けながら歩く様子や、止まってくれた車にしっかりとあいさつ



をする様子が見ていてとても気持ちよく、毎回感心しているとのことでした。このお話をお聞きして、私は、とてもうれしい気持ちになりました。そして、6年生に優しくしてもらった1年生も、きっと将来、自分が高学年になった時に下学年に優しくできる子になるのではないかと思います。

「受けた親切（恩）」に対して、してくれた人に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるだけでなく、「受けた親切（恩）」を次の人につないでいくことを「恩送り（おんおくり）」と言います。「ありがとう」と「恩送り」の連鎖が、学校を、地域を、そして社会をよりよいものにしていきます。6年生や周りの支えてくださる方々から受け継いだ思いやりや行動力が、次の学年へ、またその次の世代へと受け継がれ、子どもたち一人一人の生きる力として広がっていくことを願っています。

